

平成28年度 入学試験問題（午後）

# 国語

## 注意事項

- ※ 問題は20ページまであります。
- ※ 試験時間は50分です。
- ※ 開始の合図があるまで開かないこと。
- ※ 答えは全て解答用紙に書くこと。
- ※ 句読点やカギカッコは一字と数えること。
- ※ ページが抜けていたり、印刷が見えにくかったりした場合には、手を挙げて知らせること。

一  
次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、本文中の表記は原文のままにしてあります。字数制限のある問題は、句読点やカギカッコも一字と数えること。

科学を避けられないようにする、というだけで一歩、科学に近づける。今よりも科学的になれる。わからないからといって聞かないという姿勢をやめるだけで良い。

自分にとって興味のないジャンルというのは、聞いてもなかなか頭に入らないものだ。試験のためにする勉強で、それをつくづく感じた人は多いのではないか。歴史のテストの前日に、どうしても覚えられなかったものが、ちよつと時代劇を見ただけで、自然に覚えてしまうし、またもつと自分で調べたくもなる。こんなに勉強が好きだったんだ、という思いを歳を取ってから経験する人は意外に多い。

つまり、人間というのは、「思い込んでしまう」生き物なのだ。自分は、それは嫌いだ。自分は、それに向かない。そういうものは、自分とは無関係だ。そんな数々の思い込みが、自分の可能性をいかに小さくしているか、ということに気づく必要があるだろう。

10 「思い込み」という言葉ではなく、「割り切り」というと良い印象に聞こえる。なんでも割り切つて考えなくては、と多くの人が口にする。そうして沢山たくさんのものを諦めあきら、大人になるようだ。ほとんどの人間が、「複雑」なものよりも、「単純」なものを望んでいる。自分の生き方をできるだけシンプルなものにしたい、と感じる。それは、複雑なものは頭を悩ませ、把握はあくも処理も難しく面倒だからだ。難しいことは、すなわち苦しいこと。だから、できるだけ避けたくなる。これは生き物の本能かもしれない。

現実というものは、非常に複雑である。世の中も、社会も、人間関係も、すべて単純ではない。だからこそ、できるだけ「割り切つて」単純に捉えとらえよう、という方向性が自然に生まれる。これ自体は、とても素直なことで、けつして悪いことではない。

ただし、その単純化のプロセスで、「割り切る」という言葉に表れるように、ある程度「決めつける」ことが必要になる。もやっとした広がりをも、ある一点で代表させ、そのシンボルによって認識する、という行為だ。「単純化」「デジタル化」などと表現しても良い。

20 自分に対して、「文系だ」と決めつけることで、目先の面倒を切り捨てることができた。たしかに単純になっている。そして、その単純化の過程で失われたものが、科学というわけである。

科学とは、民主的にみんなで確認をするシステム、つまり、他者と共有できることが基本となる、と述べた。このとき、数字による精確なコミュニケーションが必要になるし、また、観察されたものを分析するときの厳密さも問題になる。

「科学者は、科学でなんでも解決できると傲おごっている」と言う人がいるけれど、それは、その人が勝手に思い込んでいる印象である。むしろ、科学ほど「謙虚けんきょ」なものはない。ものごとを少しづつ確かめながら進んでいる科学の基本姿勢は、傍目はためには、楽観ではなく②である。そこまで慎重になる必要があるのか、と思えるほどだ。

ちよつとした質問に対しても、「まあ、だいたいそうですね」と割り切って答えることができないのが、科学者である。それは、少しでも例外が認められるなら、僅わずかかでも違う可能性が考えられるならば、肯定することはできないという姿勢であり、なによりも謙虚さの表れといって良い。

30 「安全側」という言葉を、理系の人はよく用いる。この言葉の反対は、もちろん「危険側」である。これから訪ねるところへお土産みやげを持っていくとしよう。ケーキの4個セットにするか、それとも6個セットにするかをお店で迷ったとき、「まあ、6個の方が安全側だね」と言ってしまう。4個では足りない可能性が高くなるから、危険側だという判断だ。しかし、そのケーキもの凄むさく高価な場合には、自分の財布にとっては、4個の方が明らかに安全側だ。そこで、科学者は、恥ちをかく危険性と、現金が少なくなる危険性をなんらかの変換係数を用いて処理し、同じ数字で比べられるようにするだろう。その結果、やはりトータルとして安全側が選ばれる、というわけである。

35 このように、科学というものは、印象や直感をできるだけ排除し、可能なかぎり客観的に現実を捉えようとする。そうすること

とで、人間、人生、あるいは社会に利益がもたらされる、と考えられるからだ。科学の目的は、すべて人間の幸せにある。では、普通の人が、科学的であるためにはどうすれば良いだろう。

繰り返し述べているように、まずは科学から自分を無理に遠ざけないこと。数字を聞いても耳を塞がず、その数字の大きさをイメージしてみることに。単位がわからなければ、それを問うこと。第一段階としてはこんな簡単なことで充分だと思う。

40 さらに、ものごとの判断を少ないデータだけで行わないこと。観察されたものを吟味すること。勝手に想像して決めつけないこと。これには、自分自身の判断が、どんな理由によってなされているのかを再認識する必要があるだろう。理由もなく直感的な印象だけで判断してないだろうか、と疑ってみた方が良い。

「スコットランドの羊」という有名なジョークがある。沢山の本で紹介されているし、ネットでもさまざまなバージョンを読むことができ、登場人物もそれぞれに違っている。どれがオリジナルなのかはわからないが、だいたいこんな感じである。

45 天文学者と物理学者と数学者の3人が、スコットランドで鉄道に乗っていた。すると、窓から草原にいる1匹の黒い羊が見えた。

天文学者がこう呟く。「スコットランドの羊は黒いのか」

それを聞いて、物理学者が言った。「スコットランドには、少なくとも1匹の黒い羊がいる」

50 すると、数学者がこう言った。「スコットランドには、少なくとも1匹の羊がいて、その羊の少なくとも片面は黒い」

僕なら、ここに、子供を1人登場させ、最後にこう言わせたいところだ。

子供「あれは ⑥」

このように、人間は大人になると（たとえ、科学者であっても）、自分が観察したものから、ついつい「勝手に」決めつけようとする。数々の疑問をスキップして、結論へジャンプしてしまうのだ。経験を積み重ねるほど、むしろこのジャンプは頻繁になる

55 達できる。正解を早く見出すことが、社会で生きていくうえで重要視されるので、自然にみんながジャンプするようになるのだ。

しかし、「科学」は、そういった「見切り」のジャンプを原則として許さない。⑦ 一歩一歩段階を踏み、みんなで確かめながら、あらゆる疑問をぶつけ、それらをことごとく解決しなければ、前に進むことができない。それが科学というものの仕組みであり、そのルールが「科学的」という意味なのだ。

60 したがって、個人においても、科学的であるためには、あらゆるものを疑い、常に「本当にそうなのか？」と自問することが大切である。

当然ながら、「そんなに疑ってばかりいたら、できるものもできなくなってしまう」という意見が出るだろう。僕だって、そんなにいつもいつも、なんにもかもすべてを疑っているわけではない。たとえば、食卓に出された料理は、それが何なのか知らずに食べているし、本を読むときだって、出てきた固有名詞をいちいち調べたりはしない。

65 社会で生きていくためには、この種の「省略」が不可欠ではある。また、他者が関わるような場合には、あまり疑ってばかりいると不信感を抱かれる。「この人、ちよつとおかしいんじゃない？」と⑨ を顰められるだろう。他者にそういう悪い印象を与えることは、自分にとって不利益になることもあるから注意が必要だ。

ただ、重要なのは、自分がそれを割り切っている、決めつけている、と意識していることだ。「まあ、これくらいは、流しておこう」と思えば良い。沢山のものを流す必要があるけれど、流しているという自覚があれば、「あ、これは、ちよつと吟味したいな」と感じるものごととき現れる。そのときだけ、疑えば良い。最初から、流されることを完全に許容し、自覚を忘れてしまおうと、こういった疑問を見逃すことになるだろう。

科学的に生きることは、わりと面倒なことかもしれない。たぶん、多くの人は、「そんな面倒なこと、私はしたくない」と考

えるだろう。そのとおり、多少は面倒である。でも、慣れてしまえば、それが当たり前になる。すると、<sup>⑩</sup>考えない人たちの危険や損が見えてくるのだ。

75 疑問を持つことは良いことだ、と子供のときに教えられた。しかし、細かいことをいちいち質問していると、大人は結局は「<sup>うらやま</sup>煩い」と怒りだすのである。

子供の質問にはどんなことでも丁寧<sup>ていねい</sup>に答えた方が良く、と簡単にはいえない。質問にも、答える価値があるものと、そうでないものがある。下らない質問は、下らないと答えれば良い。そういうことも、質問の内容を聞かなければわからないから、質問自体を拒否してはいけない。

80 僕は23年間、大学で学生の指導をしてきた。僕は、常に学生に質問<sup>うなが</sup>を促す。1回の講義で1人必ず1回は質問をするように、とルールを決めたこともある。また、100人くらいが聴いている講義で、毎回紙片を配り、全員に質問を提出させるようなこともした。それらの質問はワープロで打ち、個々に回答も書く。それをプリントして次の講義で全員に配布した。自分以外の全員が何を質問したかもわかる。毎回それをやるのである。

疑問を持つこと、質問をすること、つまり問題を見つけることは、科学にとって非常に大事なことだ。否<sup>いな</sup>、科学だけではない。どんな分野であっても、何が問題なのかを常に知ろうとしなければならぬ。その姿勢が、ものごとを前進させるといっても良い。問題が発生するのを待って、それを解決するだけでは駄目だ、ということである。もっと極端にいえば、解決など誰にだってできる。そんなに難しい問題なんて、この世にはほとんどない。過去の経験の蓄積もあるので、<sup>たがひ</sup>大概はマニュアルになっているだろう。面倒だったり、技術的に難しかったり、費用がかかる、という困難さはあっても、どうやって解決すれば良いのか一つも方法を思いつけないという難問は滅多にない。99パーセントの問題は、機械的に解決できるといっても過言ではないだろう。

90 難しいのは、問題を見つける方だ。<sup>⑫</sup>何が問題なのかを発見することこそ、一番重要な仕事であり、それこそ人間の能力が問わ

れる。

(森博嗣<sup>もりひろし</sup>『科学的とはどういう意味か』〔幻冬舎新書〕より。一部に省略がある)

問1 — 線部①「科学ほど『謙虚<sup>けんきょ</sup>』なものはない」とありますが、「謙虚である」とはこの場合、どのようなことですか。その説明として最も適切なものを次のア〜エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 科学が、世の中のあらゆる問題を解決することができるわけではないのは当然のことだ、と考えること。
- イ 科学は、様々な疑問を解決した後でなければ先に進めず、簡単に結論が出せるものではない、と考えること。
- ウ 科学は、人類の様々な進歩に貢献してはきたが、だからといって文系の学問よりも偉いわけではない、と考えること。
- エ 科学が、その進歩によって人々に幸福をもたらすだけでなく、不幸をもたらすことも十分にあり得る、と考えること。

問2 ② に当てはまる、「楽観」の対義語を漢字二字で答えなさい。

問3 — 線部③「恥をかく危険性」とありますが、この場合、具体的にどのような時に「恥をかく」のですか。その内容を、次の文の空欄<sup>くうらん</sup>に当てはまる形で答えなさい。

《 》 時。

問4 — 線部④「ものごとの判断を少ないデータだけで行わないこと。観察されたものを吟味すること。勝手に想像して決めつけないこと」とありますが、これらのことが最も実行できていないのは、「スコットランドの羊」の話の中で誰ですか。次のア〜オの中から一つ選び、その記号を答えなさい。



問10

——線部⑩「考えない人たちの危険や損」とありますが、具体的にはどのようなことがあり得ますか。説明として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 他の人たちから、おかしい人なのではないかと不信感を持たれること。

イ 正しい答えにたどり着けなかったり、自分の可能性を小さくしてしまうこと。

ウ 科学の進歩によって生まれた成果を、他の人と同じようには受け取れないこと。

エ 仮に正解に到達できたとしても、それは常に偶然の結果でしかないということ。

問11

——線部⑪「何が問題なのかを発見することこそ、一番重要な仕事であり」とありますが、このように言えるのはなぜですか。その理由として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 何が問題なのかを見つけようとする営みの先にこそ、人類や世の中の進歩があるから。

イ 人間の能力には限界があり、その能力を効率よく使っていくことが、社会では求められるから。

ウ 他のことは人間以外のものが行なうことも可能だが、問題の発見だけは人間にしか出来ないから。

エ 忙しい現代社会では、問題をいち早く見つけることが、最も価値のあることとして認められているから。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、本文中の表記は原文のままにしてあります。字数制限のある問題は、句読点やカギカッコも一字と数えること。

高校三年生の倉持謙太郎は、将棋部員で、将棋の実力は全国大会レベルである。同じ学年の部員には、一緒に全国大会を戦ってきた梶浩太、町山太陽（通称ハルヒ）、安達祐介らがいる。

梶にも、そしてハルヒや祐介にも言っていないことだったが、倉持は大会を前にひとつの大きな選択を迫られていた。（注1）団体戦に出るか、個人戦に出るかという選択だった。

倉持はこれまでに3つのタイトルを獲得していた。全国高校将棋選手権団体戦、全国高校将棋竜王戦、全国高校将棋新人大会の3つだ。残る高校公式戦タイトルはただひとつ全国高校将棋選手権の個人戦での優勝だ。そのタイトルを獲得すれば、史上初の4冠達成となる。

「どうだ、今年は個人戦に出てみないか」

そう本郷先生に言われた時、正直、4冠を目指すということがまずピンとこなかった。すごいことなのだろうとは思う。しかし、よし前人未到の4冠を達成してやろう、という熱意のようなものが自分の中からは湧いてこない。

何よりも（注2）昨年、自分のせいで果たせなかった団体戦優勝を、今年こそ実現させたいという思いが強かった。

10 「やっぱり団体の方がいいか？」

「そう……ですな」

「先生としては、倉持がそれだけ団体を大事に思ってくれてるっていうのは嬉しいんだけどなあ。でも、これは、お前にしかできないことだ。そして、今しかできないことでもある。よく考えてみてくれ。俺には決められない」

15 そう言われて倉持はひたすら考えた。けれど、将棋のように現実の最善手が何なのかはなかなか分からないものだ。

4冠への挑戦は確かに今しかできないだろう。しかし、団体戦での優勝も今しかできないという思いは強かった。1年生の時  
でさえ、あれほど嬉しかったのだ。一緒に長い時を過ごした今、優勝を分かち合うことができれば、どれほどの喜びだろう。何  
より、昨年の敗北の苦味はまだはっきりと残っている。団体戦での勝利しかその苦味を消し去ることはできないという思いもあ  
った。

20 自分がいなくてもチームは優勝できるだろうか。自分がいなくなったら、実力的に梶、祐介、ハルヒの3人になる。そのこと  
は、3人にいい影響を及ぼすのではないか。祐介ももっと部活に来るようになるのではないか。

考えれば考えるほど判断材料は多くなり、心は千々に乱れる。

倉持が団体戦に出ると信じて疑わないハルヒたちと話していると、彼らをこっそり裏切っているような気持ちになる。自分が  
どうしたいのか、どうすればいいのか余計に分からなくなった。

25

《 中略 》

乗馬をやってみないか。突然、先生がそんなことを言い出したのは、県大会まで1週間となった頃のことだった。

倉持はまったく聞いたことがなかったが、乗馬は長らく先生の趣味であると言う。まったくの<sup>(注3)</sup>インドア派だと思ってい  
たから、驚いた。しかも、外での活動にもいろいろあるのに、乗馬を選ぶなんて、本当に<sup>つか</sup>掴みどころのない人だ。

30

「乗馬はな、姿勢がよくなるんだ。で、姿勢がよくなると、長時間座<sup>②</sup>っていても疲れない。疲れないと、集中力が続く」  
絶対、将棋にもいい影響があるから、やってみないか、と先生は<sup>②</sup>理路整然と勧めてくる。試しに時間を聞くと、朝の8時だと  
言われ、間<sup>③</sup>を容れず「いいです」と断る。さすがにそれは気が重い。

「そう言うなって。じゃあ、朝8時に迎えに行くからな」

先生は珍しく強引に押し切ると、本当に迎えに来た。

35 髪を整える気力も起きず、ぼさぼさの髪のまま助手席に乗り込むと、先生は「今日はまた奇抜なヘアスタイルだな」と皮肉を言った。

「そうですね。今の気分を表してみました」

皮肉で返すと、先生はふとなぜだか嬉しそうに笑った。

40 先生が会員だという乗馬クラブは郊外にあった。会員になって数年だという先生は、忙しくて最近あまり来ていないのだとこぼす。

確かに、非公式の大会も含めると数えきれないほどの数だ。毎週のように引率している先生には、乗馬はおろかゆっくり休む時間もないのだろうと改めて思った。

45 簡単なレッスンを受けた後、乗馬クラブのスタッフに手綱たづなを押さえられた馬にまたがる。またがるというよりはよじ登るような形になったが、なんとか乗れた。思ったより視点が高くなり、軽い恐怖を覚える。足で馬の胴どうをぎゅつと締めると、馬が軽く身じろぎする様子が生々しく伝わってきた。

とにかく、（注4）パドックを1周ゆつくり歩かせる。それだけのことなのに、背中が既にガチガチになっている。

それでもしばらく歩かせていると、体が自然と学習したのか、余計な力が抜けて、少し楽に乗れるようになってきた。それでも、上下する馬体の上で、体が揺さぶられて痛い。

乗馬クラブの人の手を借りて、馬から降りた時には、そう長い時間も乗っていないのにへとへとだった。

50 「これだけでも、だいぶ姿勢がよくなったはずだ」

背中が固まっているだけで、姿勢がいいのとは違うんじゃないかと内心思うが、先生が嬉しそうなので、小さく頷うなずくとどめ

る。

「ちよつと休むか」

馬場が見えるベンチに先生と並んで腰を下ろす。腰をかめるというちよつとした動作にも、体がぎしぎしとする。

55

「その、だなあ……馬には乗ってみよ、人には添うてみよってことわざあるだろ。いや、これはちよつと違うか」

「個人戦のことですか」

倉持から切り出すと、先生は「鋭いな」と苦笑した。

「普通分かりますよ。いきなり、乗馬なんて」

「いや、姿勢がよくなるっていうのも本当のことだぞ」

60

「でも、1回じゃ意味ないですよね」

「まあな……で、どうだ」

「迷ってます」

目の前の馬場では、若い女性が馬を走らせている。競技者なのか、人馬一体となって障害を越える様子は美しく、思わず目が引き付けられた。

65

「……個人獲とったら、全部だぞ」

「分かってます」

「何が引つかかっている？ やっぱり、団体戦の方がいいか」

「それは、はい。でも……先生は、個人戦に出てほしいんですよ」

「俺の希望は関係ない」

70

先生は素早く強く否定する。倉持は足元の草をなんとなしに引きちぎった。

「正直……俺、先生に言われてなかったら、こんなに迷ってないと思います。面倒だなんて思ってたと思う。今も正直、嫌だなあって気持ちもあるんですけど」

「うん」

75 「でも、先生がそう言うなら、個人に出た方がいいんじゃないかなって気持ちもある。それは、先生の言うことだから従うとかそういうことじゃなくて。信頼してるんで。俺のこと考えて言ってくれてんだらうなって。それには応えたいなって」

先生は左手で顔をずるつと撫なでた。

「今、ずしつときたなあ」

「きたって、何が」

「なんか重いもんがさ。⑤ っって重いな。こんな重いものを俺はお前に渡してるんだな」

80 馬場では、馬が障害を前にしり込みをしていた。馬上の女性が何度も何度も馬を宥なだめ、障害と向き合わせる。なんて今の心情にびつたりの光景なんだとぼんやりと目をやっていると、次の瞬間、当たり前のようにひらりと馬が跳はんだ。ちよつとあざといぐらいのタイミングで、もしかして、先生が自分の背中を押すための演出かと疑心暗鬼になって、ちらりと顔を見る。先生は地面に落としていた視線を倉持に向け、すぐにまた地面に戻した。

「でも、俺は、お前ならこの重さに耐えられると思って渡してるんだからな」

85 「いや、その言い方余計に重いんですけど」

「確かにそうか」

先生が低く笑う。

馬場では、障害を一通り越えた馬がゆっくりと歩かされている。鼻の穴を大きく膨ふらましたその顔は、いわゆる（注5）ドヤ顔そのもので、倉持は思わず笑ってしまう。

90

「いや、そりゃ、重いか」

倉持の笑いを勘違いした先生が少し嬉しそうな口調で重ねて言う。倉持はあえて訂正せず、「はい」とだけ答えた。

それから、3日後、倉持は先生に個人戦出場の意味を伝えた。

「団体にお前がいなくていいっていうのはちよつと心細いけど。でも、今しかできないことをやった方がいいと思うから」

先生のほつとしたような、静かな興奮を抑えているような顔を見て、決断してよかったと思った。

95  
ハルヒと祐介、そして、梶にはその後、報告した。もう決まったこととして伝えたかったからだ。先生に伝える前だと、どうしても3人の声を聞いて、また迷ってしまう。それが心配だったのだ。

100  
実際、決断した後だというのに、ハルヒに「一緒に(注6)リベンジするんじゃないの」と言われた時は心が揺らいだ。その後、(7)「うそうそ」と笑う顔を見た時はもつと揺れた。

梶は特に驚く様子もなく淡々とした調子で報告を受けると、「俺、なんか関係ありますか？」と憎たらしい口調で言った。一応、梶にも伝えなきゃと思つたことを後悔しかけたが、チームを頼むと伝えると、神妙な顔になつて頷いた。

最後に伝えた祐介は、最初、怒つたような顔をした。倉持が団体戦の枠やを祐介に譲つたと勘違いしたらしい。全然関係ないと伝えても、しばらく半信半疑な様子だった。

「今しかできないことをやってみようと思つて」

105  
それらしい言葉を口にして、納得してもらおうとするが、祐介は倉持の言葉がまだ百パーセント自身の中で消化しきれていないことを敏感に察し、疑いの度を深める。

「……俺、倉持が出なくても団体戦、無理だから。受験もあるし、これから8月までずっと大会に備えるなんて無理だ」  
9  
今度は倉持の耳が、祐介の言葉のざらつきを感じ取る。

110

「すごい勝手なこと言っている？　なんとか両立させてよ」

「な」と言いかけた形に祐介の口が固まる。

「俺さ、個人戦に出ること決めたけど、やっぱり団体も大事なんだ。優勝したい。そのためにはどう考えたって、祐介の存在が必要なんだよ」

「……そんなこと」

115

「全国レベルの実力があって、梶とハルヒの間に入って、チームらしい空気も作らなきゃならない。その条件満たしてる奴って、うちの部に他にいる？」

「そりゃ……そんな（注7） オカン気質な奴は他にいないかもしれないけど、でも、実力だけで言えば」

⑩ まだ言い募ろうとするのを遮って、倉持はきっぱりと告げた。

「俺、祐介が団体戦に出ないって言っても、個人戦に出るから」

120

その言葉がどう響いたのか、それともまったく関係ない理由によるのか、その日から祐介が部活に戻ってきた。しばらく将棋を離れていたから、随分と勝負勘が鈍ってしまっている。倉持やハルヒなどの相手はもちろん、後輩にも負けた祐介は、塾の曜日を週末に移し、毎日、（注8） 歩に負けないほど遅くまで部屋に残って将棋を指すようになった。

「これで、団体のメンバーに選ばれなかったら、めちゃくちゃ俺、恥ずかしいんだけど」

125

しかし、勝負勘さえ取り戻せば、祐介の実力はかなりのものだ。個人戦を終えた後の先生の発表を待たずとも、ハルヒ、祐介、梶の3人がA1チームとなることは、もう暗黙の了解⑪ になっていた。少しでも安定して勝てるように、倉持は彼らの参謀役さんぼうやく となり緻密な戦略ちみつ を授ける。一切口にはしなかつたけれど、4人目のメンバーのつもりでいた。

（小山田桐子『将棋ボーイズ』〔幻冬舎文庫〕より）

注

- 1 団体戦に出るか、個人戦に出るか——個人戦に出場する選手は、団体戦には出られない決まりになっている。
- 2 昨年、自分のせいで果たせなかった団体戦優勝——一年生の時の倉持・ハルヒ・祐介のチームは、全国大会で優勝した。  
しかし、祐介を外して梶を入れた二年生の時のチームは、最後に倉持が負けて、準優勝に終わった。
- 3 インドア派——屋外での活動よりも、室内での活動の方を好む人。
- 4 パドック——調教用の馬場。 5 ドヤ顔——「どうだ」と言わんばかりの、得意げな顔つき。 自慢げな顔つき。
- 6 リベンジ——勝負に勝って、以前に負けた時の恥をそそぐこと。
- 7 オカン気質——世話を焼いたり細かい注意をしたりするのが得意な性質。
- 8 歩——倉持たちと同じ学年の将棋部員。

問 1 ——線部①「これ」とはどのようなことですか。その内容を、次の文の空欄に当てはまる形で答えなさい。

《 》 《 》 《 》

問 2 ——線部②「理路整然と」とはどのような様子ですか。その説明として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 分かりにくくなるようにわざと遠回しに      イ 相手が反論できないように畳みかけるように
- ウ 誰もが納得するようにきちんと筋道を立てて      エ 誤解がないように言葉をたくさん使って丁寧に

問 3 ③ に当てはまる漢字として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 隔      イ 断      ウ 髪      エ 話

問4 — 線部④「普通分かりますよ」とありますが、どのようなことが分かるのだと考えられますか。その内容を、次の文の空欄

A・Bに当てはまる形で答えなさい。

倉持を《 A 《 という名目で外に連れ出して、《 B 《 を決めさせよう、という先生の考え。

問5 ⑤に当てはまる漢字二字の言葉を本文中から抜き出しなさい。

問6 — 線部⑥「ちよつとあざといぐらいのタイミング」とはどのようなことですか。その説明として最も適切なものを次のア

エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 成功するか失敗するか、見ている専門家にもちよつと分らないくらい、ぎりぎりのタイミング。

イ 決断できずに迷い続けるのはよくないということに分からせようとしていると考えられるタイミング。

ウ 誰にでもできる実に簡単なことなのだということを分からせたいという狙いが明白な、ひどいタイミング。

エ 悩んでいる自分に答えを出せと促すために、わざわざこの場面を狙ったとしか思えないくらい、のタイミング。

問7 — 線部⑦「その後、『うそうそ』と笑う顔を見た時はもつと揺れた」とありますが、それはなぜだと考えられますか。その説

明として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 自分の正直な気持ちを押し殺して、倉持の意思を尊重しようとする、ハルヒの気遣いを強く感じたから。

イ 笑い話にして簡単に流そうとする程度のことと捉えている、ハルヒの気持ちの軽さを初めて知ったから。

ウ 本心を悟られまいと努力してはいるが、心の底では自分に対して怒っているのだということに気付いたから。

エ こんな大事な時に嘘や笑いでごまかそうとするハルヒに、大切な団体戦を任せることはできないと思ったから。

問 8

——線部⑧「倉持の言葉がまだ百パーセント自身の中で消化しきれていない」とはどのようなことですか。その説明として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 倉持が言った言葉の内容を、言った本人である倉持がまだしつかりとは実行できていない、ということ。
- イ 倉持が言った言葉であるにも拘わらず、その内容を、当の倉持本人がまだ十分には納得してない、ということ。
- ウ 倉持が言った言葉が重要な意味を持っているということ、祐介はまだ全部は理解できていない、ということ。
- エ 倉持が言った言葉が突然だったために、自分とどう関係づければよいのか祐介にはまだ分かっていない、ということ。

問 9

——線部⑨「言葉のざらつきを感じ取る」とありますが、「ざらつき」はどのようなことが理由で生まれていると考えられますか。その説明として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 祐介は、倉持のことを全面的に許したわけではない、ということ。
- イ 祐介は、長い不振で自信を全く失ってしまった、ということ。
- ウ 祐介は、自分の本当の思いを言っているわけではない、ということ。
- エ 祐介は、もはやチームや部活のことを少しも考えていない、ということ。

問 10

——線部⑩「まだ言い募ろうとする」の説明として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 自分たちが出場するはずの団体戦の作戦をまだ練り続けようとする
- イ 団体戦に出るように倉持を説得する言葉をまだ言い続けようとする
- ウ 倉持がよく分かっている部内の事情を詳しく説明し続けようとする
- エ 自分が団体戦に出るつもりがないことの言い訳をまだ続けようとする

問11 — 線部⑩「暗黙の了解」とありますが、これはどういう意味ですか。最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 最終的な決定はまだだが、ほぼ決まりかけていること。
- イ 誰も言葉にはしないけれども、全員が分かっていること。
- ウ 反対することもできないくらいに、はっきり決まったこと。
- エ まだ知らない人もいるが、人々が徐々にじょじょに分かり始めていること。

問12 — 線部⑪「一切口にはしなかったけれど、4人目のメンバーのつもりでいた」とありますが、この時の倉持の気持ちの説明として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 苦楽を共にしてきた仲間のために出来る限りの貢献をして、一緒に優勝の喜びを分かち合いたい。
- イ 自分がいなければ、チームはやはり戦力的にかなり不安なので、強くリードしなければなるまい。
- ウ 他のメンバーに何かあった時は自分がいつでも代わりになれるように、準備だけはしっかりしておこう。
- エ この段階になって部員や先生に言うわけにはいかないが、団体戦への未練がまだかなり残っていて、心が揺れている。







